

## 資料 8

## (単位：千円、%)

※ 現金支出を伴わない費用（減価償却費など）や一般会計繰入金など12等分で算出している項目がある。

※ 「目標値」は、経営改革プランに掲げている年間の目標値を6月末までの経過日数（91日）で除して算出したもの（以下同じ）。

|      |             |                                                         |
|------|-------------|---------------------------------------------------------|
| 医業収益 | ▲ 82,785 千円 |                                                         |
| 入院収益 | ▲ 82,360 千円 | ⇒うち、整形外科▲52,442千円、外科▲35,833千円、眼科▲9,837千円<br>内科+22,035千円 |
|      |             | 【分析及び対策①】                                               |
| 医業費用 | + 19,436 千円 |                                                         |
| 給与費  | + 16,695 千円 | ⇒うち、報酬+15,869千円<br>6月分の増加が大きい（前年度比で+13,317千円）           |
| 材料費  | ▲ 7,652 千円  | ⇒うち、診療材料費▲10,441千円、薬品費+2,263千円                          |
| 経費   | + 9,640 千円  | ⇒うち、委託料+15,740千円、修繕費▲6,819千円<br>委託料は労務単価の上昇などによるもの      |

## 2. 業務実績(4月～6月)

| 項 目            | H30    | R1<br>(A) | 前年度との比較 |         | 目標値<br>(経営改革プラン)<br>(B) | 達成率<br>(A)/(B) |
|----------------|--------|-----------|---------|---------|-------------------------|----------------|
|                |        |           | 増減値     | 増減率     |                         |                |
| 入院患者数 (人)      | 12,379 | 10,904    | ▲ 1,475 | ▲ 11.9% | 13,559                  | 80.4%          |
| 1日平均患者数 (人)    | 136.0  | 119.8     | ▲ 16.2  | ▲ 11.9% | 149                     | 80.4%          |
| 新規入院患者数 (人)    | 1,158  | 983       | ▲ 175   | ▲ 15.1% | 1,144                   | 85.9%          |
| 平均在院日数 (日)     | 10.6   | 11.1      | + 0.5   | + 4.7%  | 11.9                    | 93.3%          |
| 診療単価 (円)       | 54,618 | 54,452    | ▲ 166   | ▲ 0.3%  | 55,662                  | 97.8%          |
| 外来患者数 (人)      | 27,738 | 25,245    | ▲ 2,493 | ▲ 9.0%  | 27,300                  | 92.5%          |
| 1日平均患者数 (人)    | 447.4  | 427.9     | ▲ 19.5  | ▲ 4.4%  | 450                     | 95.1%          |
| 診療単価 (円)       | 13,450 | 15,286    | + 1,836 | + 13.7% | 14,500                  | 105.4%         |
| 救急患者受け入れ件数 (人) | 261    | 260       | ▲ 1     | ▲ 0.4%  | 388                     | 67.0%          |
| 救急応需率 (%)      | 79.6   | 73.2      | ▲ 6.4   | ▲ 8.0%  | 90.0                    | 81.3%          |
| 紹介率 (%)        | 66.0   | 72.0      | + 6.0   | + 9.1%  | 65.0                    | 110.8%         |
| 紹介患者数 (人)      | 2,631  | 2,622     | ▲ 9     | ▲ 0.3%  | 2,511                   | 104.4%         |
| 逆紹介率 (%)       | 77.5   | 82.8      | + 5.3   | + 6.8%  | 70.0                    | 118.3%         |
| 逆紹介患者数 (人)     | 2,442  | 2,407     | ▲ 35    | ▲ 1.4%  | 2,263                   | 106.4%         |

<4月～6月の業務実績の主な増減項目と内訳 >

○前年同期と比較して

入院患者数 ▲ 1,475 人 ⇒うち、整形外科▲1,056人、外科▲421人、  
 新規入院患者数 ▲ 175 人 ⇒うち、外科▲53人、眼科▲46人、整形外科▲27人  
 (前年度に比べ、在院日数は増加⇒入院収益減少の原因)  
**【分析及び対策①】**

外来患者数 ▲ 2,493 人 ⇒うち、内科▲1,312人、整形外科▲479人、外科▲369人、眼科▲363人  
 (内科は、外来患者数は減少するも外来収益は増加＝診療単価の増加)

救急患者受け入れ件数 ▲ 1 人 ⇒救急要請件数：328件 (H30) ⇒355件 (R1) +27件  
 救急応需率 ▲ 6.4 % (救急要請件数は増加しているが、十分受け入れられていない。)  
**【分析及び対策②】**

紹介患者数 ▲ 9 人 ⇒うち、整形外科▲45人、内科▲28人、外科▲17人、耳鼻科▲9人  
 小児科+43人、放射線科+42人  
**【分析及び対策③】**

### 3. 分析及び対策

毎年6月に実施している上半期の各診療科とのヒアリングを  
5月に前倒しをして、現状分析と対策を検討

#### 【①入院収益の減少】

■状況（4月～6月の前年度との差）

| 診療科目     | 入院収益      |           |            |
|----------|-----------|-----------|------------|
|          | H 3 0     | R 1       | 増減額（値）     |
| (1) 外科   |           |           |            |
| 入院収益     | 137,048千円 | 101,215千円 | ▲ 35,833千円 |
| 新規入院患者数  | 135人      | 82人       | ▲ 53人      |
| (2) 整形外科 |           |           |            |
| 入院収益     | 97,095千円  | 44,653千円  | ▲ 52,442千円 |
| 新規入院患者数  | 75人       | 48人       | ▲ 27人      |
| (3) 眼科   |           |           |            |
| 入院収益     | 25,237千円  | 15,400千円  | ▲ 9,837千円  |
| 新規入院患者数  | 111人      | 65人       | ▲ 46人      |

#### ■分析及び対策

##### (1) 外科

《収益減の主な要因》

- ・ 消化器手術の減（H30：73件、R1：55件）

《分析》

- ・ 紹介患者数の減少（H30：202件、R1：185件）

《対策》

【紹介患者の減少③】へ

##### (2) 整形外科

《収益減の主な要因》

- ・ 手術件数の減（H30：60件、R1：38件）

《分析》

- ・ 医師の長期休暇による影響（3名→2名）

《対策》

- ・ 医局への医師派遣要請の継続

##### (3) 眼科

《収益減の主な要因》

- ・ 白内障手術の減（H30：112件、R1：67件）

《分析》

- ・ 医師の異動（交代）による影響（1名→1名）

《対策》

- ・ 老朽化した医療機器（手術関連）の更新

## 【②救急患者の減少】

### ■状況（4月～6月の前年度との差）

| 項 目         | H 3 0 | R 1   | 増減値    |
|-------------|-------|-------|--------|
| ・救急搬送受け入れ件数 | 261人  | 260人  | ▲ 1人   |
| ・応需率        | 79.6% | 73.2% | ▲ 6.4% |

### ■分析及び対策

#### 《分析》

- ・救急輪番日においては、救急搬送患者を受け入れているが、輪番日以外の日には受入体制が十分でない。
- ・救急搬送患者の約40%は入院につながっている。

救急搬送患者の増加＝入院患者の増加

#### 《対策》

- ・救急体制の見直し  
(参考)

#### 救急の体制（概要）

| 種類        | 主な業務        | 時間帯            |
|-----------|-------------|----------------|
| ・管理当直     | ・病棟患者への対応   | ・24時間365日の体制   |
| ・救急対応（輪番） | ・救急搬送患者の受入  | ・輪番日の夜間        |
| ・救急対応（独自） | ・診療所からの患者受入 | ・平日21時まで、土曜日午前 |

※輪番日…小児科2次救急（月及び火）、外科1次救急（金及び第1・3・5月）、  
外科・内科2次救急（第1及び最終を除く金）

## 【③紹介患者数の減少】

### ■状況（4月～6月の前年度との差）

| 項 目    | H 3 0  | R 1    | 増減値  |
|--------|--------|--------|------|
| ・紹介患者数 | 2,631人 | 2,622人 | ▲ 9人 |
| ・紹介率   | 77.5%  | 82.8%  | 5.3% |

### ■分析及び対策

#### 《分析》

- ・紹介患者数は微減だが、紹介率は増加 ⇒ ∴紹介状のない初診患者の減
  - ・地域の診療所の認識
- ⇒ 間もなく県立西宮病院と統合するとの認識が持たれていた。  
統合新病院での連携についての情報不足

#### 《対策》

- ・地域診療所訪問の強化（訪問件数の増加と統合に係る情報の伝達）

#### 【継続】

診療所の医師と中央病院の医師との顔の見える関係の構築

⇒ 紹介患者の更なる獲得（紹介患者の約20%は入院へ）

#### 【新たな取組】

県立西宮病院との統合に関する正しい情報の伝達（至急）

統合はおよそ6～7年先の予定であること。

統合後も中央病院の機能は原則新病院に引き継がれること。

統合新病院でも連携は継続されること。

県立西宮病院との統合に向けた進捗状況の報告（今後継続）

安心して患者を紹介いただけるための情報提供

#### 4. 病院全体としての取組

第1四半期での課題に対する主な取組の内容はお示したとおりです。

5月以降、病院事業管理者からは、各部門のリーダーに対して個別に取組について指示するとともに、病院全体としての取組強化を図るため、管理職職員全員に対して、現状の認識と各医療現場での更なる取組を要請しました。

7月には、患者数が減少する夏場を迎え、院長からも管理職職員に対し、以下の3点について、取組の徹底を喚起しました。

- ・地域診療所訪問を強化し、件数の増加（分析及び対策③）
- ・救急体制の見直し（分析及び対策②）
- ・経費の節減のさらなる推進

材料費については、全国と同規模公立病院の平均仕入価格で購入できるよう価格交渉を現在進めているが、今後は同等品で安価な診療材料がある場合には切替について積極的に努めていく。

（その他、今年度重点的に取り組んでいる内容）

○ 診療報酬加算、機能評価係数のさらなる獲得

◆既に取得した加算

- ・地域医療支援病院（年間約3,000万円の増収）
- ・急性期看護補助体制加算 1 2 5 対 1（年間約900万円の増収）
- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算

◆今後取得を目指している加算

- ・認知症ケア加算

○ 各診療科の目標達成に向けた定期的な進捗管理

- ・診療科ヒアリングにおいて、各科が設けた収益等目標への取組について進捗管理を定期的(3ヶ月)に実施し、目標に対する意識及び取組を促進していきます。